

子どもの「きこえ」と発達



妊娠の経過は順調でしょうか。赤ちゃんの誕生が楽しみですね。今後、徐々に発達していく赤ちゃんの「きこえ」について、今から、赤ちゃんのお母さん、お父さんに関心を持っていただきたいと思い、大切な点をお知らせします。

多くの方にとって、「きこえる」ことは当たり前で、「きこえ」についてあまり深く考えたことはないのではないのでしょうか。「きこえ」は、話し言葉の発達に重要な役割を果たしています。言葉が聞こえるから話し言葉が育ちます。大切なのは、赤ちゃんがわかる方法でコミュニケーションをしていくことであり、コミュニケーションを通して得た『わかる経験』が、後の言葉の発達や認知発達を支えていくことになるのです。赤ちゃんのしているもの、好きなものを柔らかな声で言葉にして話しかけてあげてください。赤ちゃんの気持ちに寄り添って、赤ちゃんの伝えたいことや感じていることをそのまま言葉にしてみましょう。そして、赤ちゃんの顔を見ながら、その言葉がちゃんと赤ちゃんに届いているかどうか確認してみてください。言葉は大人が教え込むものでもなく、親子で育てていくものです。

赤ちゃんが産まれたら、どうぞ「きこえ」に関心を持ってみてください。

■「きこえ」の検査を受けましょう

一般に、耳のきこえに障害を持つお子さんは、1,000人に1人の割合でいると言われています。

「きこえ」は話し言葉の習得と深い関係があり、言葉が耳から聞こえることによって、話す言葉が育ちます。

そのため、早い時期に「きこえ」の障害に気付くことはとても大切です。ですが、「きこえ」の障害は見えないために気付かれにくいという特徴があります。

そこで、全ての赤ちゃんが新生児聴覚スクリーニングを受け、できるだけ早い時期に「きこえ」の状態を検査されることをおすすめしています。

■検査の方法

検査は、生まれて間もない時期に器械をつかってささやき声程度の音を赤ちゃんに聞かせ、その反応をみます。

赤ちゃんの入院中、自然に眠っている間に検査を行います。検査にかかる時間は数分間で、痛みは伴いません。ただし、検査をする時期が生まれて2～4日の時期なので、赤ちゃんの状態によっては「きこえ」が正常でも反応が得られない場合が1,000人に1～2人程度いると言われています。